

# 茨城大学学報

第278号

平成20年4月～平成20年5月



農学部でも田植えの季節を迎えた

## INDEX

- ◆平成20年度茨城大学入学式
- ◆新歓祭を開催
- ◆小峯秀雄准教授（工学部）が「文部科学大臣表彰」を受賞
- ◆救急救命講習会の開催
- ◆図書館で「学生地域参画プロジェクト」展示開催
- ◆図書館で市民講座を開催
- ◆平成20年度第1回サステナ・フォーラムを開催（ICAS）
- ◆地域企業12社を『こうがく祭+オープンキャンパスで』紹介

茨城大学総務部総務課広報係

TEL 029-228-8008

FAX 029-228-8019

## 平成20年度茨城大学入学式

平成20年度入学式は、4月9日（水）午前10時から茨城県武道館において、学長、役員、部局長、評議員等の参列のもとに挙行されました。

入学生とその保護者らが出席した満席の会場の中、本学吹奏楽団の演奏による国歌吹奏とともに式が始まりました。入学生紹介及び各学部等総代の宣誓書提出に続き、菊池学長から各学部、大学院及び専攻科の入学生と各学部編入学生の合計2,224名に対する入学許可、式辞、役員・部局長等の紹介がありました。更に、入学生総代 栗田耕平さん（農学部）の宣誓があり、参列者全員で校歌を斉唱して閉会となりました。

今年度の入学式より、在学生在が進行に参加し、司会を務めた小野寺明日菜さん（人文学部）も、新入生に先輩としてエールを送っていました。

### ◇平成20年度入学式学長式辞



茨城大学学長 菊池 龍三郎

平成20年度茨城大学入学生の皆さん。  
入学本当におめでとうございます。茨城大学を代表して心からお祝いを申し上げます。昨日の嵐も過ぎ、華やかな春の彩りと香りに包まれて、本日、平成20年度入学式を挙行し、皆さんを茨城大学にお迎えす

ることに、私たち教職員一同心から慶んでおります。また、ご両親ご家族の皆様にも心からのお祝いを申し上げます。

ご承知かと思いますが、茨城大学は、今年で創立59周年を迎えます。5つの学部と各分野の専門の教育研究センター等を数多く擁する茨城大学は、教育と研究に関する優れたスタッフを多数擁し、教育と研究の両面で多くの実績を挙げている国立大学であります。

この後数日間にわたって、皆さんに対していろいろなガイダンスがありますので、その機会に本学のおおまかな姿については知って戴きたいと思いますが、本学では、国立大学の長所である少人数教育によって、「丁寧にそして確実に身に付く教育」をモットーにして、入学された皆さんの期待に必ずや応えることができると思います。

さて、入学に当たり、皆さんに次のことを申し上げたいと思います。これは最近この様な場合に何度もお話していることなのですが、「教養」のあり方についてであります。

ある時、関西大学の竹内洋先生の話をお伺いする機会がありました。先生によると、私たちの教養には三つの種類があると言うのです。

第一は、喩えて言えば、「得をする教養」「役に立つ教養」です。これは知っていないと社会の中で、あるいは生きていく上で困る教養のことです。簡単に言えば、実用的な教養です。これは、私たちが若かった時代と皆さんの時代とは非常に異なります。昔はなかったIT関係の知識などについて言えば、携帯電話を活用して、皆さんは今やチケットの予約から商品の購入申し込みや地図の案内まで、実に様々なことをやってのけることができます。またパソコンで色々な仕事ができないと困ります。また、昔は英語は受験に



必要な「読む」能力と「書く」能力だけで十分でしたが、今や国際化が進む中では、「話す」能力と「聴く」能力は必須です。これらの教養は現代では立派な「役に立つ知識」であり「知らないと困る教養」であります。

この点について本学は、この役に立つ教養、知らないと困る教養の面でも皆さんのお役に立ちます。入学してからすぐに、例えば情報教育や実践的な英語教育である総合英語プログラムが始まります。これは読む、書く、話す、聴く、の四領域の力をバランスよく育てます。さらに本学は皆さんに、在学中に交流協定を結んでいるアメリカの大学への短期の語学研修にも是非行って欲しいと期待しております。このように、皆さんには、在学中に、授業を通して、またクラブ活動や友達関係を通して、沢山の「知って得をする」教養を身に付けて欲しいと思います。

次に第二の教養は、「ひけらかす教養」です。ひけらかすという言葉の意味は、もっていることが自慢で見せびらかしたくなるという意味です。私たちの時代で言うと、書いてある内容はほとんど理解できないのに、哲学の本だとか思想の本などを囁いてみて、知ったかぶりをする。生半可通ですね。そのうちにその分野のことを少しは友達などに語れるようになる。そこで自分が関心を持った人物の全集を買い求めたりする。また音楽を例にとると、友達に刺激されて急にクラシック音楽などを聴き始める。ベートーベンはいいか、いやバッハに始まりバッハに終わると言われてるけどやはりバッハだと思うな、などと友達から聞かされたりすると、自分でも聴いてみたくなり、アルバイトで得たお金でプレーヤーを買い、レコードを買い集めていく。そのうちに生半可ではなく、それこそ相当に物知りになり、実際、自分は他人が知らないことを相当知っていると通ぶってみたりする。私が特に皆さんに申し上げたいのは、

人間は、特に若い時には、人よりも広く深く知っていれば誰かに自慢したくなる、ひけらかしたくなるものを身に着けたいという気持ちが大事だし、それが自然なことです。これが皆さんを高める大事な力になるのです。そのためにも、自分を高める重要なきっかけとして、友達や先輩、そして何よりも先生からの刺激が大事です。



そのためにも皆さんには、本学在学中に、自分の可能性を広げ、深め、高めてくれる人間関係を是非積極的に築いて頂きたいと願っております。

さらに、竹内先生が言う第三の教養とは、「邪魔をする教養」です。昔はよく「教養が邪魔をしてそんなことできない」などと言ったものでした。邪魔をする教養というのは、私たちが何か後ろめたいことをしようとしても、教養を持っているために、人間としての道を踏み外せない、そこまではできない、躊躇してしまう、そういうのが「邪魔をする教養」だということです。

先生によれば、大学を出た人間というのは、これら三つの教養のバランスが取れた人間である。つまり、大学を出た人間に求められるのは、仕事や人間関係で役に立つ色々な知識や技術、引くくめて言えば「得をする教養」はもっていた方がいい。

また、人に通ぶって自慢したり、少しは見せびらかしたくなるほど、自分は人よりも沢山本を読んで、人が知らないこと、文化的・芸術的なこと、思想や哲学的なことを沢山知っているということがある。そうした「ひけらかす教養」も、若い皆さんには当然あってよい。それは皆さんを高める原動力でもある。

しかし、それだけでは不十分である。皆さんには、「邪魔をする教養」も必要なのです。今、情報化、IT化が進み、社会全体が、誰がその行為をしたのかが見えにくい社会になっています。しかし、この社会では個人の行為が見えにくくなります。それとともに、人



に知られなければ構わない、平気だという無責任な傾向が益々広がってきています。携帯メールなら、パソコンの2チャンネルなら何を言っても何を書いても構わないという態度が広がっています。そうした中で、今や、自分の行為に責任を取らず、社会のせいにする、他人のせいにする傾向が強くなっています。しかし、私たちの社会は、

何をやっても許される社会では絶対にありません。

私が申し上げたいことは、このような時代と社会において、皆さんに求められる教養は、特に、「邪魔をする教養」であるということです。「それを言っちゃあお終いよ」、というのは有名な寅さんの台詞ですが、大学で学んだことが邪魔をして、「それをやっちゃあお終いよ」とブレーキとなって行動を思い止まらせる、「邪魔をする教養」も皆さんには求められているということ、私は申し上げたいのです。それが今流行語となっている人間の本当の品格をつくることになると強く思っております。その意味でも、皆さんには、是非、入学後も自己を向上させる努力を続けてほしい、そのためには、たとえば中身のあつた本を読み続ける努力を自分に義務として課して欲しいと願っています。

とにかく皆さんには、自分達の知性の進歩こそが、困難な時代と社会の未来を切り開くはずだという強い気概、高い志を持って学んで欲しいと強く期待しております。好きなこと、関心のあることにとことん突き進んでください。そのエネルギーは沢山あるはずです。思い切って若い情熱を注いでください。

卒業後の進路について一言触れるならば、皆さんの先輩は、より高い専門的な能力の獲得を目指して大学院に進学する卒業生も大勢おりますし、公務員、民間企業等で頑張る先輩も勿論大勢おります。さらに、マスコミ界でも、これまでは新聞社などが多かったのが、一年前には、始めてNHKの女性アナウンサーへの進出を果たすなど、卒業後皆さんは各方面で大活躍をしています。

健康に十分に気を付け、生活全体のリズムを、学習を中心として組み立ててください。大学生活は、自由度が増す代わりに皆さんには自己管理の努力と能力が求められます。なぜ自己管理能力が大事かと言うと、いずれ社会に出て行ってから皆さんはこの自己管理能力があるかないかを試されるからです。

それから大事なことをもうひとつ。これからの大学生活の中では、大学生活に慣れないとか、自分の専攻分野に馴染めないとか、人間関係がうまくいかないとかの悩みなどが少なからず出てくるかもしれません。そうした時に、本学では皆さんのどんな悩み、どんな相談事にも対応できる体制ができています。絶対に、自分ひとりだ、自分は孤独だなどと思込まないよう、担任の先生や事務のスタッフにも遠慮なく気軽に声をかけてください。何よりも大学では友だちをつくってください。友だちがひとりでもできたらもう大学生活は成功です。今日この場で、両隣に座っている同じ新入生と、この後まず「よろしく」



と言葉を交わしてみてください。何事にも簡単に諦めたり投げ出したりしないで、皆さんが選んだこの茨城大学で最後まで頑張り続けてください。みんなで応援します。

それから、本日大勢ご出席いただいている保護者の皆さま方にも心からお祝いを申し上げたいと思います。国立大学法人化後5年目を迎え、私たちの茨城大学は、入学した学生をしっかりと丁寧な教育する大学、教職員と学生がともに希望を語れるような大学、卒業するときに、「茨城大学に入ってよかった」「茨城大学で学んでよかった」と評価して貰える大学を目指しております。そしてそのために教職員一同最大限の努力をしております。どうぞ、安心してお子さんを見守り励まして戴きたいと思います。

なお、保護者の皆さま方には、本日、入学式終了後に大学講堂で「保護者説明会」を開き、そこで改めてお願い致しますが、今後ぜひ「茨城大学教育研究助成会」にご入会戴き、本学を様々な面からご支援戴ければと思います。本日は、助成会の会長さんにもご出席戴いておりますが、今後とも是非ともご支援、ご協力くださいますようお願い致します。

最後に新入生の皆さん、改めて入学おめでとうございます。これからの皆さんの健康と活躍を心から祈って式辞といたします。



## ◇ 新歓祭を開催しました

平成 20 年 4 月 12 日（土）、水戸キャンパスにおいて平成 20 年度新歓祭が開催されました。新歓祭は、学友会が主催する新歓企画実行委員会の運営によって毎年開催されているもので、本年度は昨年度を大幅に上回る 107 団体（昨年度は 72 団体）が参加しました。

構内に設置された、趣向を凝らしたサークル紹介の看板が雰囲気を盛り上げる中、バンドステージや路上パフォーマンス、体験コーナーなどに多数の新入生が興味を示していました。



先輩の親切な説明に思わず笑顔



## ◇ 小峯秀雄准教授（工学部）が「第20回（平成20年度）科学技術分野の文部科学大臣表彰」を受賞

この度、工学部都市システム工学科の小峯秀雄（こみねひでお）准教授（土木工学，地盤工学，原子力環境工学）が、「第20回（平成20年度）科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞（研究部門）」を受賞しました。表彰式は、文部科学省（渡海紀三朗文部科学大臣）により、平成20年4月15日、東京の虎ノ門パストラルホテル鳳凰の間において行われました。文部科学省は、科学技術に関する研究開発，理解増進等において顕著な成果を収めた者について，その功績を讃えることにより，科学技術に携わる者の意欲の向上を図り，もって我が国の科学技術水準の向上に寄与することを目的として本表彰を毎年行っています。

今回，小峯秀雄准教授が受賞した科学技術賞（研究部門）は，我が国の科学技術の発展等に寄与する可能性の高い独創的な研究又は発明を行った個人又はグループに対して表彰するものであり，今年度は小峯秀雄准教授（個人としての受賞）のほか41件の受賞が行われました。

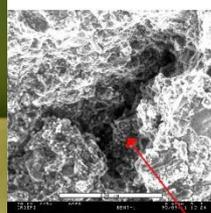
小峯秀雄准教授の受賞業績は「ベントナイト系遮水材の膨潤及び透水特性の実験と理論の研究」です。高度に発展した日本では，膨大な電気・エネルギーを利用して毎日の生活が支えられていますが，その約30%は原子力発電が担っています。これに伴い，日々，放射性廃棄物が発生しています。受賞した研究成果は，この放射性廃棄物を出来る限り安全に処分するための粘土材料（ベントナイトと呼ばれる不思議な粘土。水を吸うと，体積が5～10倍にも膨れ上がる）の使い方や寸法などの材料条件の設計法を提案したものです。放射性廃棄物の危険性は1000年以上にも及ぶので，本研究テーマは，茨城大学が標榜するテーマのひとつ「サステナビリティ学」の1研究テーマとされています。小峯秀雄准教授の研究成果は，21世紀の人類が抱える放射性廃棄物問題の解決の一助となる技術開発であると共に，持続可能な社会構築のための新しい工学への発展に寄与することが期待されると高く評価されて今回の受賞となりました。



平成20年4月15日，虎ノ門パストラル鳳凰の間にて

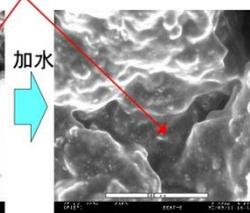
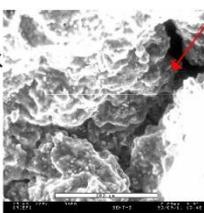


ベントナイト配合率100%

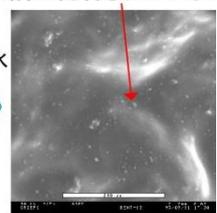


空気乾燥状態 間隙

吸水によるベントナイトの体積膨張により，間隙が徐々に充填されていく過程を観察できる。



ベントナイトの体積膨張により，ほぼ完全に間隙が充填されている。



加水後の状態

左の写真：ベントナイトが水を吸って膨張している様子（写真右が吸水前，左が吸水後）

右の写真：ベントナイトの膨潤に伴う材料内部のマイクロ構造変化の観察，世界で初めて観察に成功

## ◇ 救急救命講習会の開催

水戸キャンパスでは柔剣道上2階の剣道場において、総務部労務課の主催により、(自動体外式除細動器)の有効活用及び、救急救命活動の実践が行えるようにするため、社団法人水戸地区救急普及協会のご協力により、教職員を対象とした「救急救命講習会」を、平成20年4月22日(火)に開催しました。

講習会は31名の教職員が参加し、3時間で心肺蘇生方法(成人)、AED取扱方法、大出血時の止血方法等について学びました。

水戸地区救急普及協会から来ていただいた4名の指導員のもと、男女4グループに分かれた参加者は、実践しながら真剣に取り組みました。

労務課では今後も毎年、年3回程度講習会を開催し、多くの教職員が救急救命活動を実践出来るようにする予定です。



熱心に指導を受ける教職員

## ◇ 図書館で「学生地域参画プロジェクト」展示開催

図書館では地域連携推進本部と協同で「学生地域参画プロジェクト」の展示を開催しました。

地域連携活動の一つに学生が自主的にテーマを決め、大学からの支援を受けて取り組む「学生地域参画プロジェクト」があります。このとりくみは平成17年度から始まり、学生の発想でさまざまな活動が展開されています。

平成19年度は10件が採択され、その中で「筑波山～霞ヶ浦周辺を対象とした地域振興を目的とする地質情報活用プロジェクト」が優秀プロジェクトとして表彰されました。

このプロジェクトは地質を専門とする理学部の学生グループが筑波山、霞ヶ浦周辺の地質を独自に調査し、パンフレット・ポスターを作成して筑波山や霞ヶ浦周辺のホテル、バス会社、などに配布するというものである。また携帯サイトやホームページなどにより詳細な情報を得ることができます。

「地質観光」という新しい観光の形を提示したこのとりくみは（社）全国地質調査業協会連合会の「全地連奨励賞 Geo-Award」として表彰されたほか、テレビ局からの取材を受けるなど学外からも注目されました。

図書館では平成20年5月14日（水）から28日（水）までの期間「学生地域参画プロジェクト」の展示を行いました。展示の内容はプロジェクトの概要、最優秀プロジェクトを受賞したグループの紹介などで、そのほか地質関連の図書や図書館としての支援についても紹介しました。

図書館では今後も学生、教員の研究成果を学内外に広報し、積極的に地域連携活動の一翼を担う役割を果たしていきたいと考えています。



優秀プロジェクトのメンバー

## ◇ 図書館で市民講座を開催

図書館本館では、平成20年5月17日（土）、一般市民を対象に公開講座「使ってみよう大学図書館一見して、聞いて、学んでー」を開催しました。

茨城大としては初めての図書館職員による講座であったにも関わらず、茨城県内各地から15名の参加がありました。

参加者は図書館の利用案内、館内ツアー、貴重資料の説明など、図書館職員による90分の講義に熱心に聞き入り、活発な質問や意見交換も行われました。

アンケートでは「普段馴染みのない大学図書館について知る良い機会になった」、「貴重資料をもっと一般に公開してほしい」などの意見が寄せられました。同講座は10月にも予定されており、大学図書館と地域との結びつきをさらに深めるものとして期待されています。



図書館職員の説明に熱心に聞き入る参加者たち

◇ 平成20年度第1回サステナ・フォーラムを開催（ICAS）  
「気候、エネルギーと環境にやさしい化学—教育の課題と可能性」

地球変動適応科学研究機関（ICAS）の主催による平成20年度第1回サステナ・フォーラムが5月19日（月）開催されました。

今回のフォーラムでは、MIT（マサチューセッツ工科大学）のジェフリー・I・ステインフェルド教授（エネルギー・環境研究室、科学・教育プログラム長）を迎え講演いただきました。

MITは、今日の世界のエネルギーシステムを改善し、より望ましい形にすることを目標として、「MIT エネルギー・イニシアティブ（MITeI）」構想をうちたてています。今回の講演では、その達成のために採られている特色ある教育の取り組みが紹介されました。

フォーラムには教職員および学生、学外から約50名が参加しました。講演は英語で行われ、その途中には三村信男地球変動適応科学研究機関長による日本語の解説を挟んで進められ、参加者は、メモをとりながら熱心に聞き入っていました。



ジェフリー・I・ステインフェルド教授（マサチューセッツ工科大学）による講演

## ◇ 地域企業 12 社を『こがく祭+オープンキャンパス』で紹介 ～ 「ひたちものづくり協議会」における新しい取り組み ～

平成20年5月31日（土）、茨城大学工学部にて「こがく祭+オープンキャンパス」が開催されました。産学官連携組織「ひたちものづくり協議会」では、同イベントに地域の製造業12社を紹介するコーナーを出展しました。出展の目的は、‘地元企業の製品・技術力 PR’ や ‘教員・学生と企業との出会いの機会創出’ であり、今回が初めての取り組みです。

「ひたちものづくり協議会」は、茨城県北臨海地域の産業活性化のための諸課題について研究検討するとともに産学官の連携による産業活性化を推進する仕組みづくりを行うために平成15年5月に設立されました。立ち上げ以来、「ひたちものづくりサロン」の設立や茨城大学工学部研究室見学・交流会、企業見学会等様々な事業を展開しています。茨城大学共同研究開発センターは設立当初からのメンバーであり、現在、協議会の会長は、塩幡宏規同センター長が務めています。

こがく祭当日、出展企業のブースには、‘電子顕微鏡のステージ’、‘燃料電池のセル’、‘小型のパーツフィーダー’、‘エンジンの部品’などが並べられ、会場を訪れた方々は出展者の説明に耳を傾けていました。雨天にもかかわらず来場者が途絶えることは無く、会場は終始熱気に包まれていました。



多くの参加者でにぎわう出展ブース